桧原運動公園 インクルーシブな子ども広場づくり ワークショップ通信

（その１・その２合併号）

第一回・第二回ワークショップのご報告と次回のご案内

ワークショップの流れ

第一回
「桧原運動公園とインクルーシブな子ども広場について知ろう」
令和5年10月8(日) 10:00～12:00
@桧原運動公園野球場会議室+現地
【学びと現地確認による課題探し】 済

第二回
「こんな子ども広場があったらいいな」
令和5年10月17日(火) 19:00～21:00
@柏原小学校 体育館
【アイデア出しとゾーニング】 済

第三回
「こんな子ども広場にしよう！！」
令和5年11月21日(火) 19:00～21:00
@柏原小学校 体育館
【計画案のまとめ】

第四回
「みんなで楽しめる子ども広場ができたよ」
令和5年12月19日(火) 19:00～21:00
@柏原小学校 体育館
【最終計画案の確認】

●はじめに

福岡市では、**障がいの有無や国籍・年齢などに関わらず、気兼ねなく子どもたちが楽しめるような遊び場＝「インクルーシブな子ども広場」**を、市内第2号として桧原運動公園に整備します。現在、地域のみなさまや障がいのあるお子様をお持ちの保護者の方々と一緒に、意見やアイデアを出し合いながら、協同作業によって計画案を作り上げていく「ワークショップ」を行っており、その第一回と第二回を開催しました。お忙しい中お集まりいただいた皆様、誠にありがとうございました。

●第一回 「桧原運動公園とインクルーシブな子ども広場について 知ろう」

日 時｜10月8日(日) 10：00～12：00 場所｜桧原運動公園野球場会議室・わんぱく広場周辺

①当事者の思い・目指すべき姿

バリアフリーの対応だけでは インクルーシブな子ども広場にならない

発達障がい、知的障がいなどの障がいのある人にとっては「みんなが楽しめる公園」になっていないのが現状。

地域の公園に気軽に行きたい

地域全体がインクルーシブな考えを持つことで、近所の公園が誰もが使いやすい空間になっていくと良い。

●「インクルーシブふくおか」様に、**当事者の思いや目指すべきインクルーシブな地域の姿**などについて話題提供をいただきました。

②「インクルーシブな子ども広場」とは

誰もが お互いを理解し 安心して笑顔で 自分らしく遊ぶことができる場所

⇒「整備にあたっては様々な配慮が必要」

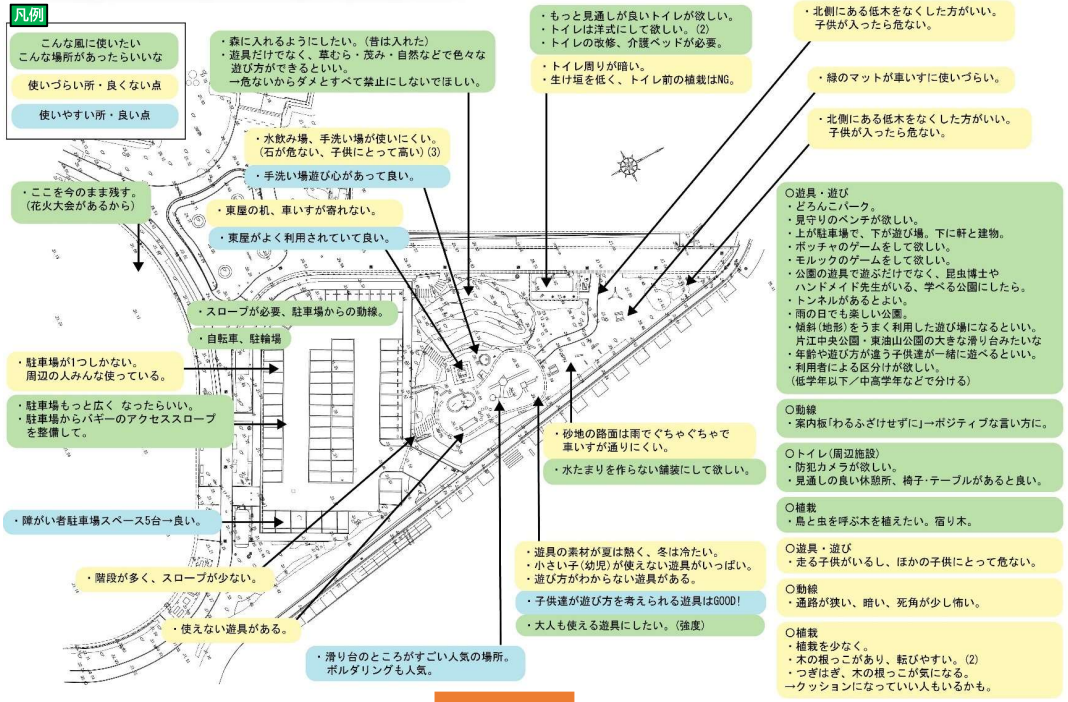
●インクルーシブな子ども広場がどのようなものか・目指す姿や整備指針を学びました。

インクルーシブ（inclusive）
||
「すべてを包み込む」
みんな一緒に・仲間外れにしない

③フィールドワーク ：「良いところ」「使いにくいところ」「こんな風になったらいいな」など

●フィールドワークの様子

●現地を回って、意見を出し合いました



④フィールドワークから見えてきた課題

- 子どもも大人も誰もが利用できる
- 様々な遊びができる
- 傾斜・地形を利用した遊び場
- わんぱく広場西側の森の利用
- 年齢や遊び方が違う子どもたちが一緒に遊べる遊び場
- 駐車場から遊び場へのスロープの整備
- 遊んでいる子供を見守る見通しの良い休憩所・ベンチ・テーブル・椅子
- 多目的グラウンド北側は広場のまま残す
- トイレ設備の改善
- 見通しの改善 など

第二回の様子は裏面へ

●第二回　「こんな子ども広場があったらいいな」

日　時｜10月17日(火)　19：00～21：00　場所｜柏原小学校体育館

①子どもたちが考えた広場のアイデア

1年生～6年生
17名の
声です！！

- そっと離れて一人になれる秘密基地
- 砂場
- 高さがちがうすべり台
- 自分で「音」が出せる遊具
- 夏場の水遊びができる環境（ヒヤッとできる所）
- 木陰がある見守りベンチ
- 飲食のための椅子や机がある休憩場所
- ボードクイズや読み物
- 飲み物の販売（自販機を増やす）
- 通路のでこぼこをなくす（でこぼこの遊び場はOK）
- トイレを増やす、多目的トイレ　　など

●柏原小学校特別支援学級の子どもたちが考えた「こんな子ども広場があったらいいな」について発表いただきました。

②「インクルーシブな子ども広場」に必要なこと

障がいの有無に関わらず、利用者（子ども・保護者）の特性に応じた
「遊び」や「居場所」の選択肢があること

「遊び」が選べる

身体的遊び
すべる、揺れる、回る、登る、跳ねる・飛ぶなどの様々な身体的動作を組み合わせた自由遊び。

精神・情緒的遊び
視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚といった感覚から、特に精神や情緒を刺激する自由遊び。

社会的遊び
利用者の交流によって生まれる集団遊び。障がいのあるなし関係なく、こども同士や、子と保護者、保護者同士の交流なども。

「居場所」が選べる

ひとり遊びゾーン
マイペースに遊べる、静かに過ごせる場所（身体的遊び・精神的遊び）

交流遊びゾーン
多様な子どもが一緒に遊べる様々なタイプの遊具を配置し、自然に人と人が触れ合える場所（身体的遊び・社会的遊び）

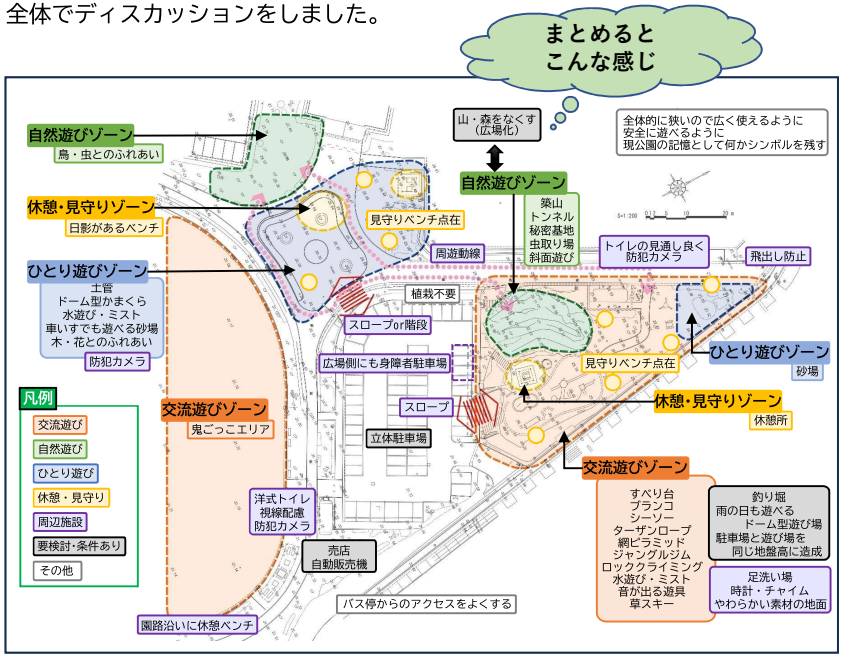
休憩・見守りゾーン
屋根付きの休憩所やベンチ、バリアフリートイレなどを配置し、保護者の見守りや子どもの休憩ができる場所

自然遊びゾーン
自然と触れ合い、自由な発想で子どもが遊べる感覚遊びなどに集中して遊べる場所（身体的遊び・精神的遊び・社会的遊び）

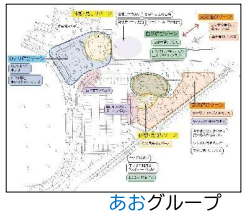
様々な特性の子どもたちとその保護者も気兼ねなく楽しめる
周辺環境も含めた様々な配慮があること

③ゾーニングについてのグループワークとディスカッション

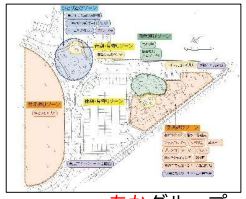
公園内の「どの場所」を「どんなふうに使うか」を考えておおよその範囲を分けるゾーニングをおこない、全体でディスカッションをしました。



●各班のゾーニング



あおグループ



あかグループ

みどりグループ

- 見守りはいろんな所に点在してあったほうが良い
- 現在の公園の形が目に焼き付いているので発想の転換をした提案も必要
- 障がいによっては「制限されない、それぞれのテリトリーが保証される」ことが大事　　など

●グループワークの様子

第三回ワークショップのご案内　テーマ「こんな子ども広場にしよう」

これまでのご意見・アイデアをもとに事務局が作成する「計画案のたたき台」について、良い点や気になる点などをグループで話し合って、**内容を具体化しながら計画案をまとめていきます。**

日時：令和５年 **11月 21日（火）**
19時～21時（2時間程度）
場所：柏原小学校　体育館

介助が必要な方やお子様連れでも安心してご参加いただけるように見守りスタッフやキッズスペースを配置します。
必要な方は申込時にお知らせください。

11/7（火）まで
参加者募集中
お気軽にご参加ください！

●お申込み／お問合せ
福岡市公園部整備課 担当：山口、中川
〒810-8620　福岡市中央区天神1-8-1-4F
✉　koenseibi.HUPB@city.fukuoka.lg.jp
☎　092-711-4410

第一回の
様子は
表面へ